

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472700414		
法人名	医療法人		
事業所名	グループホーム桜木さん		
所在地	三重県多気郡多気町大字仁田670-20		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	平成27年2月4日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472700414-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 11 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

素晴らしい緑と自然に囲まれた環境の中で2ユニット18名の入居者様が家庭的な雰囲気のもと手厚い介護をおこない地域の皆様に愛されるグループホームを目指し、ご家族様、地域みなさまにご理解ご協力をいただきながら日々温かい介護を目指し職員一同がんばっています。経営母体が病院となっているホームですので医療的なフォローは万全でご家族様もご安心いただいております。音楽療法士による定期的な音楽療法やリフレクソロジー(足裏マッサージ)昨年度よりくもん式学習療法を取り入れ充実をはかっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は経営母体が病院なので、医療面での連携がスムーズで感染対策も万全に取り組んでいる。音楽療法や足裏マッサージ、ハンドマッサージ、学習療法等を取り入れ、日々進歩している。室内は、医療的なことはまったく感じさせずに家庭的であり、手作りの食事に徹し、室内や家具で暖かな雰囲気をかもしだしている。また、全員揃って座れる大きなソファは、足裏マッサージや音楽療法時に使用し、全員が一斉に施術でき平等であると感じる。理念の「尊び心から尽くし介護させていただく」は職員の思いや言葉遣いから感じ取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊び心から尽くし介護させていただく」を理念に掲げ人生の大先輩として業務的な介護にならないよう理念の意味を職員に意識づけをおこなっている理念は事務所、両ユニット内の目につくところの掲示しており、毎朝のミーティングの中でも唱和している。	職員の言葉遣いや、利用者への対応が親切であり、理念「尊び心から尽くし介護させていただく」を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方や広報誌などをつづじて情報収集し、お祭りや文化祭などに参加している。日常的に散歩や買い物に出かけており、その際には挨拶を交わし交流をはかっている。	地域のお祭りや文化祭に参加している。地域の会社が作製したハンドクリームを使って、地元の高校生徒が行うハンドマッサージを利用者は楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度より母体の認知症サポーターと協力して地域老人会に声かけをおこない認知症について母体より講師を派遣し講演会を開催しよりわかりやすく理解していただく為、職員による寸劇をおこない理解を深めて頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の予定で開催しているホームの日頃の様子や行事取り組みを報告をおこない参加者から意見、要望をいただいている。	運営推進会議は年間5回実施し、現状の報告や独自の家族アンケートの要望を話し合っている。会議はテーマをつくりそれにあった専門の方に声掛けし出席を依頼している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の中で入居者の状況、日々おこなってきたケアの成果を報告し、入居者の状況に応じて連絡、相談おこなっている。町役場と隣接しており日々、連絡相談がおこなえる環境にある。	町役場が隣接しているため、日頃から連絡を密にしている。町主催の福祉塾、地域包括支援センター主催の勉強会や施設部会などに参加し連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない取り組みをおこなっている。職員には研修、勉強会などで認識を深めている。鍵をしないホームとして徹底している。入居者の生命に危険を及ぼす拘束に関しては一時的に家族と相談し同意を得ているが、早期に外す事を前提におこなっている。	鍵をしないホームとして徹底している。これまでも地域の方の協力を得て継続している。すべての職員は、身体拘束、言葉の拘束に関する勉強会を定期的に受けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々現場での言葉使い、会話の内容など問題がないか、身体チェック含め見過ごがないように努めている。全体会議の中でも虐待防止に向けての話し合いもおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度については現在されている利用者は昨年同様利用者はみえないが、必要性のある利用者が入居されたら柔軟に対応していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間をとって契約書、重要事項説明書の説明をおこない同意をいただいている。不明な点があれば気軽に問い合わせしていただけるようお話しをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口・意見箱を設置し面会時には直接意見を伺うようにしている。	独自に家族アンケートを実施し、家族の生の声を運営推進会議で相談し、運営に反映させている。利用者の意見は日々の会話から汲み取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見や提案をできる雰囲気作りに努めている。月に1回の業務会議の中でも報告させていただいている。家族様の生の声を聞きサービスの質の向上に努めている。	朝のミーティングや月一回の業務会議で、意見しやすい雰囲気作りを心掛けている。また、個人面談も実施し職員の心の声にも対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りの為にもストレスの出ない勤務体系を築き、十分な休息を取れるよう調整し、職員個々の向上心、仕事に対する努力・実績を把握し定期昇給や賞与に反映するなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加できるようにシフト調整をおこない職員のスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される連携会議には積極的に参加し情報交換をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で今までの生活状態や生活の把握に努めている。面談は家族中心におこなわれているがご本人様に発した言葉だけではなく、表情、動作等を観察しアセスメントするよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にこれまで困っていたことなどゆっくり時間をかけてお聞きし、状況を把握した上でどのように対応していくか検討していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族と面談、事前調査、事前確認、主治医やケアマネからの情報提供から必要とされている支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話だけでなくスキンシップをおこない、心許せる近い存在であるよう心がけ、いっしょに楽しんだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日頃の生活の様子などを報告し利用者の相談をしたり、家族の相談にも応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に親類や友人の面会をしていただけるよう環境を整えている。家族からの情報やご本人様の会話から本人に関わりのある内容を聞き、話題作りしている。	面会しやすい環境を整えている。大切にできた人や場所の話題を提供できるようにしている。地域行事には参加し、利用者が行きたい場所へ行く支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や個性を把握して間に入りコミュニケーションがとれるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる場合はケアプラン・介護情報の提供をおこなっている。母体の病院に入院された方は見舞いによったり家族に会った時は相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情・行動から何をしたいのかどうしたらいいのかな等を把握できるよう努めている。コミュニケーションを取ることが困難な方は相手の立場になって考え安心感を与えられるよう接している。	利用者一人ひとりの立場に立って想像し、その思いを考えている。要望がある時は、可能な限り実施している。学習療法時は、日々細やかに行動観察し日報に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様にアセスメントシートをもとに情報収集をしている。ご家族様が面会時には日々の状況を伝えるだけではなく、ご本人様から得られた情報をもとに以前の生活について聞き取りをおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、日誌に記録し状態の把握に努めている。申し送りなどをおこない情報交換している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者家と家族の要望を基にグループホームでの生活が家族にもよくわかるようにユニットで介護手順を話し合い介護計画書に反映させている	カンファレンスでは職員全員が関わり介護計画を作成しており、変更時は家族等と話し合っている。職員が業務中でも目にしやすいよう、計画書を集約したものを保管している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、医療連携シート、職員間の申し送りノートの記事、各ユニットの変わりごとボード、朝の申し送りをすることによって情報を共有し実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により受診困難な時は通院介助の支援、買い物、リハビリなど柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、中学生の福祉体験の受け入れ、地域のお祭りの準備に参加など暮らしを楽しめる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時にかかりつけ医を決めていただき定期受診や体調に異常がある時の受診、歯科(義歯調整・口腔ケア)の要望にも適切に支援している。	利用者に希望のかかりつけ医を受診できるよう支援している。家族等が対応できないときは、職員が対応している。歯科の往診対応も万全であり、医療体制も24時間対応になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の病院と医療連携をとっている。日常の健康管理についての相談(状態報告書)心身の変化や体調異常時は訪問看護師に相談。適切な受診や訪問看護師による看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相互に情報交換をし退院に努めている。入院中はお見舞いに出かけたり、ケースワーカーやご家族と連携を取り合っている。法人が療養病床をもっており医療連携が図りやすい環境となっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望を聞き、見取りに関する説明をしている。医師や訪問看護師を含めたチームでよりよいケアの方針を共有し終末期の支援をしている。	母体が病院である為、医療との連携がスムーズで、職員も落ち着いて取り組んでいる。家族等とも十分な話し合いを積み重ねている。方針の書類も細やかな対応が記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について母体の訪問看護師による勉強会を通じて、一人ひとりの状態に応じ実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域推進会議の際、消防署からの避難方法、自治会へ避難時の協力をお願いをし協力体制を築き、年2回の防災訓練を実施し昼夜を問わず入居者がスムーズに避難できる方法に取り組んでいる。	朝礼時に、災害時の役割分担を確認している。年2回の防災訓練も消防署指導のもと行い、自治会の協力体制も整っている。	避難場所は前が道路で交通量も多く、避難場所での利用者の見守りの方法を検討していただきたい。また工場が火災した時の避難経路も検討を要望する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的にプライバシーの配慮に心掛けています。申し送り時に介護記録の個人名はインシヤルで呼ぶようにしています。	一人ひとりの利用者に尊敬の気持ちを持って接している。基本的に敬語で対話しており、言葉かけには注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員主導にならないように本人の意向を十分に把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にせず、散歩やレクなども本人の希望をとり一人ひとりのペースに合わせた支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の理容組合の訪問理美容を利用している。外出時はご本人様と服を選んだりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳下げ膳、テーブル拭き、食器の片付けなど出来ることは利用者とスタッフが出来るだけいっしょにおこなっている。メニューは決まっているが利用者の意見を聞き変更する時もある。	食事は手作りで、地元野菜・お米を使っており、利用者のリクエストでメニューも変更している。利用者によっては、下げ膳や食器片づけをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの嗜好、体調を把握しバランスの良い栄養摂取ができるよう母体の管理栄養士、言語聴覚士の指導を受けながら必要に応じてキザミやトロミで対応、夜間でも水分補給ができるようにペットボトルに白湯を入れベッドサイド近くに設置。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアをおこなっている。能力に応じて声かけ・見守り・全介助(口腔ケアスポンジ)にておこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導をおこなっている。ズボンの上げ下げなど自分出来ることはしてもらうよう支援している。	トイレでの排泄を心掛け、一人ひとりの排泄パターンで声掛けし誘導している。声掛けは、他の利用者に聞こえないように配慮したり、慎重に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、飲水、運動、繊維質の多い食事を心掛けている。排泄チェック表で一人ひとりを把握し早めの対処をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	頻度、時間、温度など一人ひとりにあわせて入浴していただいている。	毎日入浴している利用者もいる。一人ひとりの利用者に合わせ体調や気分を観察しながら、日々工夫している。季節を感じる、ゆず湯・しょうぶ湯なども実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった際は、確認ボードに記入し注意事項など職員が把握できるようにしてある。入居者の状態の変化の観察に努め、問題があれば訪問看護師をつうじて医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の好きな方は家事を手伝ってもらい、編み物など興味のある方は個人的自由に活動するなど個人にあわせて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	入居者の体調を見ながら、本人のその日の気分や希望に応じて散歩に出かけている。近くのスーパーに職員と車に乗って出かけられるようにしている。	散歩は日課になっているが、天気や体調に合わせて、柔軟に対応している。季節の花見は紫陽花、椿、桜、ひまわりなど見学し、利用者の希望に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて所持していただき職員と家族が連携していくら所持しているかを共有している。また外出時は事前に購入するものを決め一緒に買い物ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族への手紙のやりとりを家族協力の基に支援している。電話希望時は、職員に声をかけていただき時間帯も考慮し、家族の了解を得て支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースへ季節を視覚で楽しめるように植物・飾り物をレイアウト、大きな窓から季節の花がたくさん見えるように植物を入居者といっしょに植えて窓の外を眺めながら心地よく過ごせるように配慮している。	大きな窓からは外の景色が楽しめ、季節の花が観賞できるよう配慮している。全員が揃って座れる大きなソファがあり、全体的にゆったりしている。室内は季節の飾りつけがあり季節感が出ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを見たりテーブル席で雑誌を見たり個々に過ごされており思いおもいに過ごせるような居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、相談して制限は無いので個人の好きなもの、使い慣れている馴染みの物を持ち込んでいただき、本人が居心地良く過ごせるようにご家族様と相談しながら工夫をしている。	使い慣れた家具を配置し、家族写真、趣味の小物などが飾られ、その人らしさを感じる部屋である。日常の生活感が出ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており手すりの設置、トイレは車いす対応の広さを確保、一人ひとりの身体機能に応じて家族様と相談をしポータブルトイレを設置、安全に生活が送れるように支援している。		